

【イベント レポート】

スターバックスのコーヒーバイヤーとエルサルバドルのモンテカルロス農園の農園主による、コーヒーの未来を考えるトークセッションを開催。

スターバックス コーヒー ジャパンは、スターバックス リザーブ® ロースタリー 東京のオープンを祝い、エルサルバドルから届いた、単一の農園で栽培された 3 つの品種「スターバックス® シングル オリジン シリーズ モンテカルロス エステート カトゥアイ / パカマラ / ブルボン」(https://www.starbucks.co.jp/press_release/pr2018-2860.php?nid=nw_13_pc) の販売を記念して、3 月 13 日 (水)、スターバックス コーヒー 東京ミッドタウン店にて、「コーヒーの未来を考えるトークセッション」を開催しました。

トークセッションには、世界に 4 人しかいないスターバックスのグリーンコーヒー トレーダー (バイヤー) と、エルサルバドルのモンテカルロス 農園のファーマー (農園主) であるカルロス バトレス氏を招き実施しました。

トークショーでは、「スターバックス® シングルオリジンシリーズ モンテカルロス 農園 カトゥアイ/パカマラ/ブルボン」、「スターバックスのコーヒーバイヤーの仕事」、「コーヒーの現状と危機、未来を守るための活動」についてファーマー、バイヤーそれぞれの視点で、両者が熱く語りました。



左より) エリオット ベンゼン、カルロス バトレス氏、田原象二郎

■ 「スターバックス® シングルオリジンシリーズ モンテカルロス エステート カトゥアイ/パカマラ/ブルボン」
について

モンテカルロス 農園（農園）について：3種のコーヒーを栽培しているこの農園は、火山の斜面を取り囲むように位置している。微気候により高品質なコーヒーが収穫できる、標高 1,200m~1,800m で栽培し、標高 1,000m 以下に位置する農場内の加工場でコーヒーチェリーを加工。山の斜面には、強風が吹きつけるためコーヒーの木を囲むように防風林を植えている（写真：格子状の部分）。



コーヒー豆について：同一農園から同じタイミングで3つの異なる品種を販売することは、スターバックスで世界初の取組み。スターバックス リザーブ® ロースタリー 東京のオープンのタイミングで、品種の異なる3種類のコーヒーを楽しむことができる、成熟したマーケットである日本限定で発売することになった。今後、ワインのようにコーヒーも品種ごとに楽しんでほしいという想いも込められている。



■スターバックスのコーヒーバイヤーの仕事について

スターバックス コーヒー トレーディング カンパニー グリーンコーヒー トレーダー エリオット ベンゼン
中央アメリカ、ブラジル担当



コーヒーバイヤーにとって一番大切なものは、ファーマーとの信頼関係。コーヒーバイヤーの世界では「100万ドル失っても信用は失うな」という言葉があるくらい、強い人間関係・信頼関係が重要。カルロス氏とは、お互いが困ったときに頼りあえる強い信頼関係を築いている。

重要な仕事は、未来のコーヒー、品質の高いコーヒーを調達し続けること。

今しか考えない調達では、未来に質の高いコーヒーは調達できない。将来その時に取り組んでも遅い。

そのために、C.A.F.E.プラクティスを広げている。C.A.F.E.プラクティスとは、国際環境NGOのコンサベーション・インターナショナルの協力によって定めた、測定可能な購買ガイドラインのこと。ファーマー、カスタマー、地球環境、地域社会すべてが豊かになる倫理的な調達が可能になる。

C.A.F.E.プラクティスの導入により、生産量は約40%増えている。よりよい生産者を生むことが高品質なコーヒーを持続可能な形で調達を続けることにつながっている。

※C.A.F.E.プラクティス

https://www.starbucks.co.jp/responsibility/ethicalsourcing/cafe_practice.html

例えば、スターバックスはホンジュラスからほとんど調達していなかった。しかしどうすれば調達できるか、ファーマー、農学者と一体になり品質改善に取り組み、高品質なコーヒーの収穫量を増やすことに成功し調達の量は増えている。

■コーヒーの現状と危機、未来を守るための活動について

気候変動、人口増加などさまざまな要因で、危機的な未来が訪れる可能性があるコーヒーの現状と、未来を守る活動をファーマー、バイヤーそれぞれの視点で話を聞いた。



気候変動による、さび病の広がりを感じることもある。さび病にかかるコーヒーの木の標高が高くなっている傾向にある。そのため、日陰をつくることが非常に重要になっている。シェードツリーを増やすことや、適切な農薬を使うことで、さび病の蔓延を防いでいる。

スターバックスでは、生産者の生活向上、高品質なコーヒー豆の継続的な供給を目的とし、土壌管理と農作物生産の専門家（アグロノミスト）を集めた技術支援センター「ファーマーサポートセンター」を世界8ヶ所に設立し、現地の生産者と直に接してコーヒー豆の品質向上に取り組んでいる。

様々な研究の結果を、全世界のすべてのファーマーに対してオープンにしている。

また、気候変動により増えているさび病に強く高品質で高収穫なコーヒーのハイブリッド種を研究している。苗は周辺の農家に無償で提供している。

また、コーヒーを世界初の真に持続可能な農作物にするための呼びかけ「サステナブル・コーヒー・チャレンジ」にも参画している。

<https://www.conservation.org/global/japan/Pages/sustainable-coffee-challenge.aspx>

■日本での取組み

スターバックス コーヒー ジャパン コーヒー スペシャリスト 田原 象二郎より。

想いを届けるのはバリスタの責任。毎月20日を Ethically Connecting Day にしている。

スターバックスは、2013年に99%倫理的な調達を達成。9月9日を、お祝いの日として「99キャンペーン」を実施。昨年は震災被害のあったグアテマラ産のコーヒーをお客様と一緒に楽しみ、売り上げの一部を、エリオットを通じてコーヒーの苗で寄付をした。このように、日本でもお客様とコーヒーの世界を繋げている。今年も9月9日に「99の日」を開催する予定。

※店舗での取組み

<https://www.starbucks.co.jp/responsibility/ethicalsourcing/store.html>

【プロフィール】

カルロス バトレス

噴火口のそばまで山肌の斜面一帯に広がっている、エルサルバドル モンテカルロス農園の5代目オーナー。世界で初めてパカマラ種を商業用のコーヒーとして生産。ひとつひとつの品種を大切に栽培、手摘みし、家族で経営する水洗加工場で加工。このきめ細やかさによって、このコーヒーの個性が引き出されるだけでなく、ムラのない高品質のコーヒーを生産。

エリオット ベンゼン

スターバックス コーヒー トレーディング カンパニー (以下 SCTC)

グリーン コーヒー トレーダー (中央アメリカ、ブラジル担当)

2015年より SCTC に入社。前職では、アフリカのコーヒートレーディングに長年従事。

SCTC 入社後は中央アメリカを中心に、トレーディングを担当。

田原象二郎

2000年に入社。ストアマネージャーを経て、2006年からはコーヒースペシャリストとして活躍している。パートナー(従業員)のコーヒーに関する知識向上のための教育プログラムを開発し、パートナーからお客様へ分かりやすくコーヒーの魅力を紹介するしくみを考えて伝達している。また、コーヒーの生産地を実際に訪れた経験を活かして、同社の取り組みを社内外に伝えている。